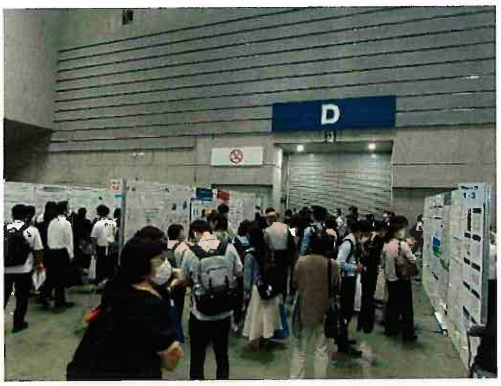
第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会
日時：2023 年 7 月 20 日（木）～22 日（土）
場所：パシフィコ横浜　ノース
参加者：朔晴久、村田智秀、能智恵美、久保田美津子　、村谷哲郎、小林とも子

COVID-19 も落ち着きを見せていることから、現地参加者はとても多く、人気のセッションは立ち見が出るほどでした。公式発表は聞いていませんが、4000 人以上の参加者であったと思われます。当院からは 2 名が発表しました。

一般演題　7 月 21 日（金）8:40
第 11 会場　一般口演 1　洗浄・消毒・滅菌
O1-2
洗濯方法変更による清拭用タオルの微生物数と Bacillus 科の臨床検体からの検出状況の変化について
村田智秀　座長　帝京大学医学部附属病院　齊藤祐平
発表 7 分、質疑 3 分で行われました。
質問は 1 名から 2 つありました。質問者自身も清拭用タオルの付着菌数を減らすための努力をした経験から、好意的な質問をしていただきました。
質問　国際医療福祉大学の先生
　菌量を減らす時の目標とする菌量はどのくらいに設定したのでしょうか？
飲食関連のおしぼりに対しては、10^5 CFU/タオルという基準はありますが、医療現場で使用する清拭用のタオルにそのまま適用できるとは思われません。しかしながら、基準は探しても見つかりませんでした。我々も同様の検討を行いましたが、結局、限りなく 0 に近づけるという考え方で行いました。

　芽胞菌を減らすために、我々は高熱乾燥を 2

回行うという間欠滅菌法を採用し、うまくいきました。乾燥は複数回したのでしょうか？上記の２つの質問があり、回答していました。また、最後に座長が、「どの変更がタオル付着菌数を減らしたのかがわかると、皆さんの参考になると思います。」と締めくくられました。



ポスター発表　７月 21 日（金）13:20～　グループ 1-5

ポスター会場　展示ホールＤ　１Ｆ

P1-052

リハビリテーション職員の白衣付着微生物に関する検討

能智恵美

今回のポスター発表は、座長無で、タイムキーパーだけがいるという形式で行われました。すなわち、司会も演者が兼ねるという方式で、発表３分、質疑２分でした。発表者の声は、本当に近くにいる数人のみが聞こえる程度で、人はとても多いので、よい形式とは思われませんでした。１列のパネルには６演題が貼られており、通路となっている２列の 12 演題が１つのグループとなっていました。

２名から下記の質問を受け、問題なく回答していました。発表後にも質問を受けていました。

どの様な白衣を着用していますか？リハビリの職種はなんですか？消毒剤使用後の菌量は減少しましたか？消毒剤はどの様な時に使用するのでしょうか？現在洗濯業者に出している頻度はどのくらいでしょうか？

会場が広く、人も多かったので、発表も近くの人以外は聞きづらかったと思われます。また、間近にいる質問者の声も聞こえづらいような状態でした。大きな学会は始めただったので、質問に十分答えられたかどうか心配ですが、良い経験になりました（能智）。